

～絵本読み聞かせボランティア来所～

令和2年2月19日（水）

絵本講師の板谷先生が、ふれあいタイムの中で絵本を読んでくださいました。毎月、この日に向けて、大型絵本や新しい絵本、季節を感じる絵本や先生のお気に入りの絵本等を準備し、紹介して下さる先生♪先生の読み聞かせに参加すると、絵本には、大人も日常の忙しさをちょっと忘れ、優しい気持ちになれる力があるように感じさせられます。ぜひ、ご家庭で、お家の方の生の声で絵本を読んであげて、絵本の読み聞かせを親子のコミュニケーションの一つとして楽しんでいただけたらと思います。



～絵本講師～
板谷 仁美先生

ママのお膝に
座って
絵本を見ている
かわいい
子ども達♪



1冊目は大型絵本
「りんごがドスン」
作：文：絵 多田 ヒロシ
【文研出版】



2冊目は名作
「はなをくんくん」
文：ルース・クラウス
絵：マーク・シーモント
訳：きじま はじめ
【福音館書店】



3冊目は、
「ゆきのひにあえたら」
はっばのしたのおんなのこ
作：ワン・コーウェイ
訳：長山 さき 【ほるぷ出版】

「なまえのないねこ」
文：竹下 文子
絵：町田 尚子
【小峰書店】

余韻が
残る
裏表紙



★表紙★



★裏表紙★



「ねえさんといもうと」
文：シャーロット・ゾロトウ
絵：訳 酒井 駒子 【あすなろ書房】



★板谷先生のワンポイントアドバイス★

～絵本における表紙・裏表紙の役割～

○芝居における「幕」と同じで表紙は「幕開け」

子どもに表紙をしっかりと見せ、タイトル、作者名出版社など読み上げてください。一見、子どもにとって関係なさそうに見えるのですが、実は重要です。子どもは意外に覚えていて、「これは〇〇さんの絵本だね」と反応することもあります。そして、その作者に興味をもち、読書の幅を広げていくこともできるでしょう。

○裏表紙は「幕引き」

その物語を締めくくるための絵が描かれていることが多くあります。しっかりと裏表紙の絵まで見せてあげましょう。それで、子どもの頭の中で物語が完結するのです。

○見返しとは…？

見返しとは、表紙の裏側に張られる紙のことで、表紙側でない半分は「遊び」と呼ばれ、絵など描かれているもの、白紙となっているものもあります。それも物語の一部なので見せてあげましょう。

また、何も描かれていない場合、飛ばしてもよさそうですが、実はそれも絵本を構成する大事な部分なのです。読み聞かせは、めくる動作によって展開していきます。飛ばしてしまうとその連続性を損ねてしまうこととなります。また、絵本の本文は扉(中表紙)から始めるのですが、そこに描かれている情報は表紙と同じであることがほとんどです。表紙、つまり「幕」と本文との間に位置する「遊び」は、子どもたちのワクワク感を引き立てる効果をもっているのです。一呼吸見返しのページで指を止めてほしいと思います。

○表紙→見返し→扉(中表紙)→本文→見返し→裏表紙

絵本には無駄なページはなく、めくることによって物語が展開していく流れなのです。表紙から裏表紙まで心を入れて読んであげましょう。

